# 年度末報告書 (実行団体)

● 提 出 日 : 2022年 4月18日

● 事 業 名 : 若者たちの自立プロセスを地域の社会資源として活用するための仕組みづくりのモデル事業

● 資金分配団体 : (一社) 北海道総合研究調査会 (HIT)

● 実 行 団 体 : 特定非営利活動法人 地域生活支援ネットワークサロン

● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成(通常枠での追加助成)の有無 : □有 ☑無

# ① 実績値

## 【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状
					況*
1-1.経済的な不安や精	【定量的指数】生活拠点	【目標値】無一文でも暮らせる	1年目:無一文拠点6	無一文拠点、支援付き住宅	2
神的な負担を必要以	の数、利用人数	拠点6名、安価な生活支援付き	名、支援付き住居3室、	として活用できる拠点が 3	
上に感じずに生活で	【定性的指数】拠点で暮	住居 20 室、シェア住宅 5 棟	シェア住宅計企画段階	拠点活用 3 名、あと 2 名程	
きる生活拠点を設置	らした若者たちの QOL	【目標状態】現状の生活から抜	2年目:無一文拠点4名、	度受け入れ可能	
	の変化、心理的な変化、	け出したい若者をすぐに受け	支援付き住居 10 室、シ	支援付き住居 3 拠点活用 5	
	生活課題の変化、社会関	入れる生活拠点がある	ェア住宅2棟	名、社宅扱い住居 5 棟 10 名	
	係の変化			活用	
5-1,2-2,4-2.若者たち	【定量的指数】イベント	【目標值】年2回、1回	1年目:年2回1回10名	高山恵子氏のメソッドと活	2
が自発的に動き始め	(機会)の回数、受け入	20 人程度	程度(リモート開催)、	用し、10 月にワークショッ	
るための動機付けが	れ人数	【目標状態】参加者全員が何ら	展望は模索段階	プを実施。メンバー10 名、	

高まる機会を開設	【定性的指数】参加者の	か次の展望を持つことができ	2年目:1回、20名程度、	サポーター3名、大阪4名の	
	満足度、参加による意識	3	   展望について議論深ま	  参加により、議論できた	
	の変化、行動への移行プ		   り、企画が進む	個別に体験プログラムへの	
	ロセス			   問い合わせ、希望が増え、	
				2021 年度は問い合わせ 7	
				件、体験が6件あり、そのう	
				ち移住が2件あった	
2-1,3-11-3.若者たち	グラムの数・種類、受益	【目標値】3 分野 10 種類程度	1年目:モデルプログラ	就労するメンバーが増え	2
のスキルアップと自	者数、プログラム提供に	のプログラムが開発される	ムが 3 つ程度開発、試	て、日常にプログラムが組	
己否定感を少しでも	参画する地域人材、機関	必要時に提供が可能	行段階	み込まれていき、類型化が	
軽減できる達成感が	の数	【目標状態】参加者が選択や変	2年目:プログラム開発	追い付いていないが、プロ	
わかりやすいプログ	【定性的指数】参加者の	更ができ、プログラムの意義や	が進み、類型化、バリエ	グラムはバリエーションが	
ラムの提供	満足度、自己否定感の変	効果について提供側と参加者	ーションが明確になる	増え、個々のニーズに応じ	
	化、就労へのアクセス状	が共有できる		て常に微調整している。	
	況 提供側の学び、変化				
1-2.日常的に生活や就	【定量的指数】相談件数、	【目標値】相談対応人材が釧路	1年目:若手人材の発掘、	個々の若者のたちにとっ	2
労など様々な相談が	相談を受ける側の人数、	に 30 人以上、多様なツールを	育成に着手、〇	て、日常の中に多彩な相談	
できるチャンネルの	チャンネルの種類、数	含めて一人3チャンネル以上	JT5 名程度	チャンネルの可能性はある	
設置	【定性的指数】依存性の	【目標状態】若者がいつでも困	2年目:人材育成プログ	一方、人材育成プログラム	
	変化、人への信頼の変化、	った時に相談してもよい、相談	ラムとチャンネルの開	やノウハウなど、普遍性の	
	自己理解の促進程度、相	できる安心感を持てる	発、ノウハウの明確化	整理が途中	
	談を受ける側の変化、成				
	長				

4-1,5-3.個人的な悩み	【定量的指数】情報発信	【目標値】毎日情報発信ととも	1年目:既存の関連事業	サイトから体験プログラム	2
を社会的な課題に社	の回数、従事者数、アク	┃ ┃に情報交換ができるサイト、メ	やツールとの連動性整	の申し込みなどが増えてき	
会化するための情報	セス数	ール、SNS など複数アクセス	理し、発信手段や頻度	たが、サイトの内容更新は	
を発信	【定性的指数】従事者の	【目標状態】自助的な情報交	を見極める	追いついていない	
	意識の変化、アクセスし	換、情報共有が自発的に展開し	2年目:効果的な情報発	ラジオによる定期発信は活	
	た人の意識の変化、社会	ている	信やメディアの明確	動を振り返り、全国に発信	
	課題が分析、整理される		化、担当者の選任	する機会となっている	
5-2,2-3.若者たちをサ	【定量的指数】マンパワ	【目標値】マンパワー値は開発	1年目:マンパワーの数	日常の中にサポーターは増	3
ポートできる人材を	一力(新たに開発)、新た	後に目標設定	値化が確立	え、ネットワークが広がっ	
発掘、育成するノウハ	にサポートし始めた人	【目標状態】サポーターが意義	2年目:育成のノウハウ	たり、世代交代 (支援を受け	
ウを明らかにする	数、サポーターの継続期	や重要なポイントを理解し、し	がガイドラインとして	ていた若者が支援する側に	
	間、	てあげる人ではなく、当事者と	完成	まわったり、支援されなが	
	【定性的指数】サポート	協働している		ら後輩のサポートもするよ	
	した人たちの変化、サポ			うなスタイル)も進んでい	
	ーターに必要とされるス			るが、中間層への負担が増	
	キルやマインドの明確化			え、人材育成のノウハウ整	
				理や人材発掘が必要なのは	
				わかっているが、日々に追	
				われて追い付いていない	

\*進捗状況:1計画より進んでいる、2計画どおり進んでいる、3計画より遅れている、4その他

# ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み

#### 1.達成の見込み

#### 2.アウトカムの状況

A:変更項目

☑変更なし □短期アウトカムの内容 □短期アウトカムの表現 □短期アウトカムの指標 □アウトカムの目標値

### 3. 活動に関する報告

(1)年間通して恒常的に行っている活動

①生きづらさを抱える若者たちの生活支援、就労支援、活動機会の提供(入れ替わりもあるが、常時 20 名程度 延べ人数にすると遠隔の 若者を含めて 30~40 名あまり)

- ②上記のうち、個別的な変遷をモニタリングしている「本科生」3名については定期的な面談、研究会を実施
- ③体験プログラムの受け入れ(2021年度は9件の問い合わせ、8件受け入れ 1名は2022年受け入れ予定)
- ④相互サポートの機会「部活」の設置と活動(情報共有アプリを活用し、活動メンバー25 名前後で推移)

日常的なアプリ内での情報意見交換のほかに、Zoom 対話 12 回、チャット 4 回、Zoom でつないでストレッチ、釧路で体育館でのスポーツ 活動、こども六法すごろくなど実施)

- (2)目的特化のイベント活層
- ①取り組みを振り返るワークショップ

1回目:5月17日13時~17時 ワークショップ プログラム—これまでの若者への支援事業を振りかえる—

講師・ファシリテーター:源由理子先生(明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科・教授)

協力:大友秀治(北星学園大学社会福祉学部福祉臨床学科・准教授) 参加者:講師等含めて 18 名

2回目:8月3日 終日 午前中準備 午後検討会 出入り含めて10名程度参加

②FFP のがっこう改め FFS (Frame Free Space) の取り組み

自分を知り、他者を知り、相互に尊重し合える関わり合いを広げることを目的として学びの分かち合いの機会を「がっこう」と仮に名付けて、6月18日に説明会を行い、7月3日に試行的にワークショップを実施。10月30、31日の開校イベントを計画(高山恵子氏を講師

に招き、自己理解のワークショップ)9月メンバー向けの事前準備の研修を経て、10月30、31日にワークショップ実施。大阪の連携団体からも4名参加、Zoomの遠隔参加もあり、途中の出入りはあるが20名前後の参加者で学び合った。一方では、イベント後の継続的な活動にはつながらなかった(日常生活や仕事が忙しくなり、対応できなくなっている)

③助成金終了後の構想を形にする活動

日本財団みらいの福祉施設建築プロジェクトへ資金援助のために企画を応募。地元の建築士を連携し、大川の拠点を全面的に増築して地域の拠点として活用する「ヨリドコロ Project」を計画作成し、提出。一次審査で落選したが、将来構想を検討する貴重な機会であると同時に、異業種との連携ができた。

6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

合宿や研修など集合スタイルをやめて、個別対応にしている

#### ② 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況

☑自団体のウェブサイトで表示している □広報制作物に表示している

- □報告書に表示している □イベント実施時に表示している □その他
  - →「その他」を選択した場合は記載してください(自由記述):

## 2. 広報

1.メディア掲載(TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

毎月第1木曜日に FM くしろで「消えたいワカモノたちのイキヅ RADIO」という1時間程度のラジオをしている。事業担当者やサポータ

- 一が本事業の進捗や発見を発信している。
- 2.広報制作物等

特になし

3.報告書等

特になし

4.イベント開催等(シンポジウム、フォーラム等)

内部の勉強会は行ったが、外向けのイベントはしていない

#### ④規程類の整備に関する報告

1. 事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。

☑完了 □整備中

2. 整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。

□全て公開した ☑一部未公開 ☑未公開

- →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日:定款は公開していますが、他はアップしていませんでした。ぬけていま した。近いうちに、整えます
- 3. 変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。

☑はい □いいえ

→「いいえ」を選択した場合の理由:

※変更していないので、報告していません

## ⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。

☑はい □いいえ

- →「いいえ」を選択した場合の理由:
- 2. 内部通報制度は整備されていますか。

_	
	<b>☑</b> はい □いいえ
	→「はい」の場合の設置方法(複数選択可):☑内部に窓口を設置 □外部に窓口を設置 ☑ JANPIA の窓口を利用
3.	利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
	<b>☑</b> はい □いいえ
	→「いいえ を選択した場合の理由:
4.	関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
	☑はい  □いいえ
	→「いいえ」を選択した場合の理由:
	ニ、ポーノラ、コチロ人口ウ切みに用出として、ナナル
b.	コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
	$\square$ はい $\square$ いいえ
	→「いいえ」を選択した場合の理由:定期開催までの事由や必要性がなかったので
6.	報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。(実施済みの場合含む)
	☑内部監査を実施  □外部監査を実施  □実施する予定がない
	→「実施する予定がない」を選択した場合の理由:

# 添付資料

活動の写真(画像データは1枚2MG以下、3~4枚程度)

# 10 月高山恵子さんを講師に勉強会を実施



拠点での交流の様子

メインメンバーが拠点前で環境整備? はたまた意見交換か





変化を定期的に見守っている本科生のうちの20代の二人

コロナの影響で学級閉鎖委になり預ってくれるところがなくて困っていた小学生の 遊び相手になりました